

特別支援学校生 160人懸命プレー

フットサル大会

道内の特別支援学校の生徒が競う「第2回小野寺真悟杯フットサル大会」が27日、札幌市内で開かれた。札幌市や函館市、根室管内中標津町など26校から中学2年～高校3年の男女合わせて約160人が出場し、懸命のプレーを見せた。写真。



札幌市の社会福祉法人「明日佳」や、フットサルリーグ「エスポラーダ北海道」の運営団体が理事長を務める小野寺真悟さん(78)が設立した障害者スポーツ振興団体の主催で、昨年からはじまった。

試合は高等養護学校5校と、小中等部の併置校21校に分かれて行われた。選手たちはスピード感あふれるパス回しや、豪快なシュートで会場を沸かせた。優勝は新篠津高等養護学校(石狩管内新篠津村)、平取養護学校静内ペテカリの園分校(日高管内新ひだか町)だった。(杉野英介)